

2014 年～

大津 恵美子 さん

大船渡市猪川町出身、現在は大船渡市日頃市町在住

お菓子でみんなに喜んでもらえる仕事

高校生のときにカフェでアルバイトして、「こんにちは」とか「ありがとう」とかやり取りするのが好きだったんですね。カフェの仕事も楽しかったし、接客と飲食業っていいなって思って…そこからお菓子屋さんってなったのは、バレンタインに好きな人にお菓子を作ったんですけど喜んでくれて。それで『お菓子でみんなに喜んでもらえる仕事がしたい』って思いました。



お店をオープン

高校卒業後に横浜の夜間の専門学校に入って菓子作りの勉強をし、卒業後は都内の洋菓子店に就職しました。19 歳から 30 歳までの間に 4・5 店舗お店に勤めました。30 歳で大船渡市に U ターンしてきて、2014 年にこの店をオープンしました。

お店の名前の由来は

フランス語で、トゥルモンドが『みんなの』っていう意味があって、パティスリーが『ケーキ屋』で…『みなさんのケーキ屋になればいいな』という思いを込めてこの名前にしました。



ケーキの種類は

お店に出してるのは 10 種類前後で、ショートケーキとかモンブランとかチーズケーキとか定番の物は常に置いておいて、フルーツ系のタルトケーキは季節で切り替えたりしてました。あとは誕生日ケーキ。そのほかに、ほんとは喫茶もやりたかったし、焼き菓子系も置きたかったんですけど、すみません、何分手が回らなくて…今はちょっとあんまり手を広げすぎると中途半端になりそうなので。

嬉しいことと苦勞は

半々くらいで、お客様と直接やり取りしてるのでダイレクトにお客様の評価をいただけるっていうのが喜び。ただ、自分ひとりでお店を切り盛りしているのも、そこは大変っていうのはありませんね。

Uターンのきっかけ

実はですね、うちの母親に、帰ってきてねって言われてたんですよ。自分の中で結婚も考えたいし出産もそれこそ考えたいと思ったので、帰るなら 30 歳までにとは思ってたんですよ。その中で震災もやっぱり一つのきっかけとしてあったんですけど、わりと出た時から帰る方向にはしてました。

正直、

充実した仕事もあったし、なんとなくあっちは馴染んでたほうだったとは思っているので、帰ってきたくはなかったんです。でも帰ってくると、もうあっちには行きたくないという、人混みは今ももう行けないかなって。慌ただしく生活してたので…こっちは渋滞も満員電車もないし、車の通勤とかもわりとスムーズに行動できるし。スーパーとかもそんなにわちゃわちゃしてない。穏やかに過ごせているなと思います。やろうと思えばネットとかかなにかしらはあるし、便利だけがいいわけではない気はしています。

大船渡でお気に入りの場所

サンアドレス公園とか福祉の里公園ですね。お店が休みのときは子どもと一緒に遊びに行ってます。



確かに都会は

人口も多く、お店も多く、いろいろなものに溢れていますが、その分商売する人も多く競争率も高い。空き物件は少なくともお店の入れ替わりは激しかったように思います。田舎は、ないもの、不自由なことは多いかもしれませんが、そのないものを田舎に持ち込んだ時にはそれが商売に繋がったり、誰かのお役に立てたり、商売するには可能性大かもです。もちろん、私のような小さいお店規模の話が前提ですが。続けていけるよう頑張りたいと思います。

